「今福線」2年目の活動

和田 浩

1. はじめに

「幻の広浜鉄道；今福線」を活用した地域活性化や地域貢献を目的としての研究部会の活動は今年で２年目を迎えた。本研究部会の活動期間は３年として、今年度は、昨年度確認できなかった区間の現地踏査や課題として残った地元の方々との意見交換を行った。

私は本調査での現地踏査や地元の方々との意見交換に参加することはできなかったが、予備調査での活動を通して、最終年度に向けての提案を行いたいと思います。

2. 活動状況

今年度の活動状況は下記の通りである。

7/30；合同協議（具体的な活動内容、研修日程等の決定）

11/ 5；予備調査（本調査に向けての事前調査として、地元の石本さんの案内による旧線の今福橋梁群を踏査）

11/19；本調査（今福橋梁群の調査、地元寿会の皆さんとの意見交換）

20；本調査（佐野～下府駅間の橋梁群・トンネルを調査）

3. 現地調査結果（予備調査）

地元の石本さんの案内で佐野町内にある４連アーチ「眼鏡橋」（別称；おろち泣き橋）から昨年度調査できなかった新線と旧線が併設する第一下府川橋梁（新線）手前より旧線に存する橋梁群や今福第六トンネルの現状把握を行った（佐野町から今福へ向けて踏査）。

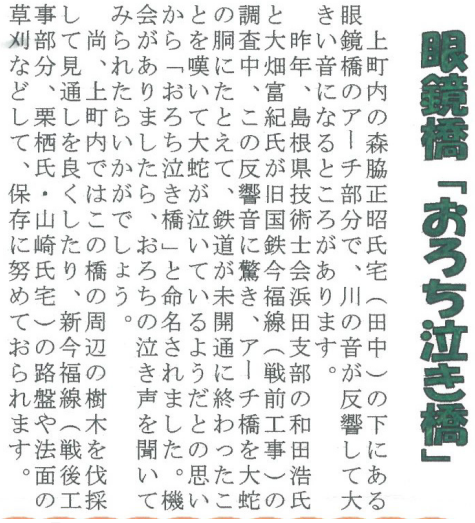
【橋　梁】

①４連アーチ「眼鏡橋」（別称；おろち泣き橋）

昨年度の当研究部会活動報告文でも記載した４連アーチの命名について、石本さんより「佐野町公民館だより」で紹介して頂くとともに、地元寿会等での了承を得て下図に示すように現地に橋名碑を建立して頂きました。

また、地元の皆さんで橋梁下を中心に草刈り等の清掃をされているとの事であった。

橋名碑；おろち泣き橋



眼鏡橋「おろち泣き橋」

草刈りなど、栗栖氏宅の路盤や法面の草刈り、栖山氏宅の周辺の樹木を伐採し、保存に努めておられます。

事部分見、通し町内でしたがって、新今福線（戦後工事）

し尚上ながらを嘆いたとこの反響音に驚き、福線（戦前の和田浩氏）

み会かとの調査大畑富紀島根県旧技術士会浜田支部

昨年度の中間報告

き眼鏡橋上町内の森脇正昭氏宅（田中）の下にある大アーチ橋の部分で、川の音が反響して大

「H23･3･1 佐野町公民館だより」

②旧線の橋梁群

橋梁は３橋建設されておりいずれも橋梁形式は４連の「RC アーチ橋」である。普段、人が立ち入ることがないため、橋面には樹木等が繁茂しており伐採しながらの前進であった。４連アーチ橋は橋梁下の河岸へ降りることができ桁下を眺めることができる。全橋とも橋脚側面からは遊離石灰や水の滲出し等の損傷が見られるが特に大きな変状はない。

1 橋目 4 連アーチ橋(新線より望む)

1 橋目 4 連アーチ橋下からの眺望

2 橋目 4 連アーチ橋

2 橋目 4 連アーチ橋の河川敷(岩畳)

2 橋目 4 連アーチ橋

2 橋目 4 連アーチ橋(橋脚破損)

ここでは、両岸より河川敷へ降りることができた佐野町側から２橋目のアーチ橋について概況を述べる。橋脚部は土石等の衝突による原因と思われる破損が見られるとともにすりへり等によるコンクリート表面の磨耗が著しく骨材が露出している。河床はほぼ全面岩が露頭し、まるで岩畳の様相を呈しており、紅葉時期の河川敷からの眺望はさぞかし絶景ではないかと思われる。

【道路・今福第六トンネル】

当日は雨であったため道はかなりぬかるんでおり、踝辺りまで長靴が嵌る中での踏査となった。今福側のトンネル坑口には水管橋が架橋されており現在も用水路として使用されている(当初はサイホンで路盤内に埋設されていた)。

道路部状況

路面状況

トンネル坑口の水管橋

4. 最終年度に向けての提案と課題

地元において「今福線」を利用しての見学会やウォーキング等のイベントが開催されれば何かお手伝いができるのではと思い、年度当初より石本さんへ声掛けはしていたが、今年度は特にイベントは開催されなかった。

しかし、浜田市・江津市をエリアとする石見ケーブルテレビで平成 23 年 7 月に放送された「謎の建造物を探れ！幻の鉄道“広浜線”」に石本さんが出演し、広浜線の現地案内や概要等について説明をされていた。その中で「おろち泣き橋」の命名や我々の活動についても紹介をして頂いた。番組内では元国鉄マンで現在、浅利寺のご住職である泉さんのお話しや資料紹介もあり、視聴者の方に興味を持ってもらったのではないかと思われる。

石見ケーブルテレビに出演中の石本さん

番組内での「おろち泣き橋」の現地案内

本研究部会の成果の一つして、河野さんの提案で「今福線」のパンフレットを作成することとなった。参考事例としては下図に示す「旧国鉄宮原線遊歩道」のパンフレットが挙げられる。

参考;「旧国鉄宮原線遊歩道」のパンフレット

パンフレットは、推奨土木遺産（土木学会）に選定された橋梁群やトンネル等の遺構を始めとして、「おろち泣き橋」のような特徴のある遺構や、地元の皆さんからの意見等を参考に作成していけたらと思う。また、地元や周辺の方々への配慮も含め来訪者のための眺望地点や駐車可能位置等の記載も必要かと思われる。

作成したパンフレットは、島根県技術士会や浜田市（観光・文化欄）のホームページに掲載し誰でもが印刷できるようになればと期待が膨らむ。

☆提案と課題

今年度現地調査した箇所も含め、遺構施設への道順・案内方法や眺望地点までの道程が整備できれば、十分観光や地域活性化としての資源になり得ると考えられる。

最終年度に作成するパンフレットや今後の「今福線」の利用方法等について提案していく上での課題を以下に述べる。

(1) 「今福線」の遺構としての価値の周知、地元や周辺の方々の理解と協力

イベント開催、パンフレットの作成、来訪者の見学や駐車スペースの確保等について、地元や周辺の方々の全てが賛成で協力的とは限らない。地域の方々の理解と協力を得るためには、「今福線」の遺構としての価値（単に古い物、撤去し忘れの物ではなく）をまず地元の方々（浜田市全域も含めて）へ周知し、遺構に誇り（愛着）を持ってもらうことが必要ではないだろうか？ 大人世代では困難なことも、幼児・小・中・高学校を介して若い世代の皆さんへの課外学習等を行うことは、故郷の良さを知ってもらう機会としても受け入れられ易いのではないかと思う。

(2)管理者である浜田市への働きかけと関連機関の連携

「今福線」の見学やイベントを行うにあたり安全面（橋梁への防護柵設置・補修）及び快適面（道程までの草刈や清掃等）において、管理者である浜田市の了解や協力が必要となる。

また、地元、管理者である浜田市、学校（教育関係)、観光協会及びマスメディア（石見ケーブルテレビ等）等の関係機関が連携を図ることで色々な行事が可能になる（選択肢が増える）のではないかと思われる。

(3) 「今福線」の健全度評価

「今福線」の構築から約 80 年が経過し、工事終了後 30 年近く経っておりその間、維持管理等はほとんどされていない。今後、遺構を活用して行くならば、構造物としての健全度評価はしておくべきではないだろうか。

5. おわりに

「今福線」を後世に残すことができるか、あるいはどのように活用して行くかは、それに関わる人たちの思いがどれくらい強いかに係ってくるのかもしれません。

前述した課題を解決していく上で、我々技術士会としてできることは僅かかもしれません。が、地元の方々との意見交換を一つのきっかけとして、人と人とのつながりや絆を大切に取り組んでいくことができればと思います。

来年度は本研究部会の最終年度として、パンフレットの作成を始め、実行可能な事項等について提案していきたいと思います。

以上